

〈彙報〉

平成六年度 国文学科活動報告

文学遺蹟めぐり―宇治方面―

日時 平成六年五月二十五日(水)

行程 宇治橘島集合・点呼―平等院鳳凰堂見学―宇治観光

開発にて解説・昼食―十三重石塔前見学―宇治上神

社―三室戸寺見学―解散

対象 国文学科一、二年生全員

今年度の文学遺蹟めぐりは、久しぶりに宇治方面に出かけました。当日は、良い天気恵まれ、実地学習にふさわしい一日でした。橘島で点呼の後、平等院鳳凰堂の見学に始まり、昼食場所にて柿谷先生と鈴木先生の解説を伺い、宇治と縁の深い作品を鑑賞する時間を持ちました。薫と浮舟や、平家の武将たちの悲哀流れる宇治川にしばし目をとめ、平安の昔に想いを馳せる学生もいたのではないかと思います。その後、初夏の日差しを友として三室戸寺を参拝し、名残の風が吹くなかで今年の旅を終えました。

国文学科講演会

日時 平成六年六月三十日(木) 第五・六時限

対象 国文学科一、二年生全員

会場 南港学舎講堂

講師 神戸大学文学部教授

池上 洵一先生

演題 「シルクロードからきた話

―不思議な鹿の物語―

今年度の講演会は、説話文学研究で高名な池上洵一先生にご無理を申し上げてお願いすることにした。「宇治拾遺物語」に収める五色の鹿の話などを題材に、インドから中国、日本、また時には西欧へ、文字通りシルクロードを伝って、物語が如何に変容を遂げていくのかをお話しいただいた。仏典などに記された内容を非常に分かりやすくご説明くださるばかりでなく、遺蹟に残る壁画資料なども視野に入れてのお話には、学生達も普段の講義にないものを感じたようである。熱心に身乗り出して聞き入っていた学生達も多く、講演会后、演習などの場で取り上げたゼミもあると聞く。豊穡な説話文学の世界に触れ得たひとときであった。

国文学科芸能鑑賞(能・狂言)と

難波宮跡見学

日時 平成六年十一月二十八日(月)

午前十一時から午後三時

場所 大槻能楽堂(大阪市中央区上町A番七号)

参加者 国文学科一、二年生全員

専任教員六名・助手二名

演目 解説

能 「安達原」

狂言 「棒縛」

泉 嘉雄

以上の要領で平成六年度国文学科の芸能鑑賞を実施。学生には事前に研究室から資料を配布し、当該演目に関する予備知識を求めた。また当日には、大槻能楽堂から学生鑑賞能のパンフレットも配布され、一層理解を深めたことと思う。

みちのくの安達が原の黒塚に

鬼こもれりといふはまことか

平兼盛

背景にひそむ「ひとつ家の鬼女伝承」に思いを馳せるとき、和歌との関連など、様々な興味を起こさせる演目であった。

観能後、橋本先生の解説のもと、史跡「難波宮跡」を見学。

学科行事として、充実した一日を過ごすことができた。

相愛女子短期大学土曜公開講座

—日本の文学—

今回は、中西前学長、本学科非常勤講師(大谷女子大学教授)入江春行先生を交え、国文学科専任教員が中心となって、「日本の文学」というテーマで公開講座を催し、盛況のうちを終えることができた。プログラムは以下の通り。

8	7	6	5	4	3	2	1
7 / 30	7 / 23	7 / 16	7 / 2	6 / 25	6 / 18	6 / 4	5 / 28
その思想 【歎異抄】の文章表現と	漱石と現代 —今、なぜ漱石なのか—	与謝野晶子とその時代	怪異の世紀 —【雨月物語】の世界—	西行 —教奇の通世—	【源氏物語】を読む	古事記・日本書紀の地名説話	萬葉集 —額田王の歌と生涯—
中西 智海	鳥井 正晴	入江 春行	山本 和明	鈴木 徳男	柿谷 雄三	橋本 雅之	北谷 幸册